

今、いちばん気になる統計は？

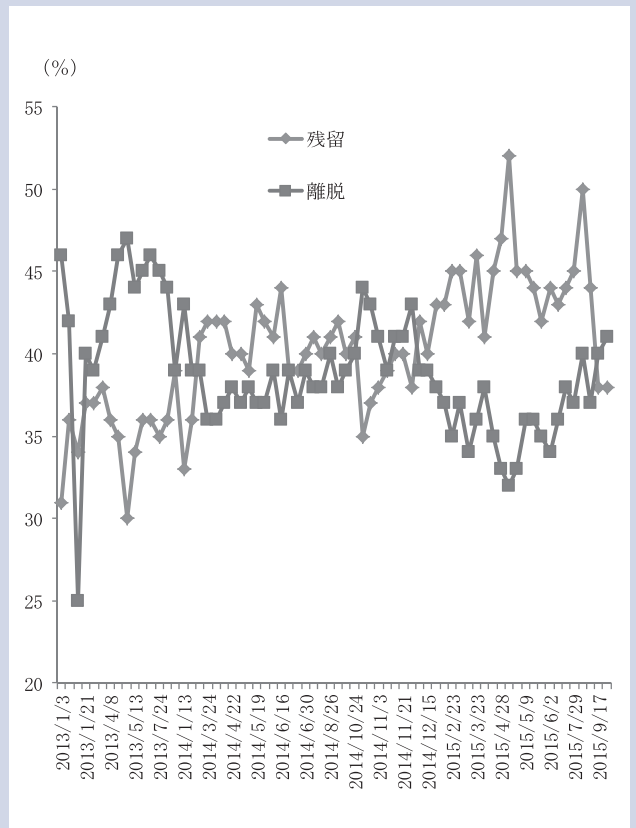
英国の国民投票に関する世論調査

欧州統合に懐疑的な国民が多い英国では、英国が欧州連合(EU)にとどまるか、離脱するかを問う国民投票を2017年末までに実施することが決まっている。英国では近年、新たにEUに加盟した東欧諸国などからの移民の急増が社会問題化している。移民政策は5月に行われた総選挙でも大きな争点となったほか、国民投票に先駆けて英国政府が進めているEUとの関係見直し協議でも重要な柱となっている。

英国のEU残留/離脱の是非を問う国民投票に関する世論調査は、残留支持と離脱支持が拮抗している。だが、7ページで取り上げた欧州の難民危機が深刻化して以降、離脱派が再逆転する調査が増えている。欧州への難民急増は、EUの国境管理が機能していないとの印象を英国民に抱かせ、離脱派を勢いづける恐れがある。英国がEUを離脱するとすれば、欧州統合への打撃は計り知れない。難民危機が英国の国民投票の結果に与える影響が懸念される。

(経済調査部 田中 理)

資料 英国のEU残留/離脱の世論調査



(出所) YouGov資料より第一生命経済研究所が作成

編集後記

今更と言えればそれまでかもしれないが、これだけ円安になっても輸出は思うようには伸びない。これだけ企業のキャッシュフローが潤沢なのに思ったほど設備投資は増えない。これだけ人手不足なのに賃金は思ったほど伸びてこない。ただいづれも伸びていないわけではないので、根本的にロジックが変わってしまったということではないと思う。

それでも思うように数字が出てこないというのは、やはり世の中が変化しているということだろう。その変化を捉えるにあたって重要なのは、それが可逆的なものなのか？それとも不可逆的なものなのか？という点だ。また人は往々にして世の中は変化していくものだとして理解していても、想定外の変化には過剰に反応し過大評価したりする。逆にそうした変化を何かの間違い、一時的ノイズだと無視して過小評価したりもするもの。

変化を正しく捉えることは永遠の課題とも言える。出来るだけニュートラルな目で世の中を見て「今」を正しく捉えたい。未来は現在の延長でしかないのだから。

(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。